

黒部川ダム排砂評価委員会開催結果

1. 第15回黒部川ダム排砂評価委員会

開催要件

開催日時 平成15年3月26日(水)10:00~12:10

会場 富山市於、「名鉄トヤマホテル」3階「清風の間」

出席者

委員長 高倉盛安 元富山県立大学短期大学部長(環境)

委員 大熊 孝 新潟大学工学部教授(河川工学)

鈴木満平 富山県水産試験場長(漁業)

反町 稔 日本海区水産研究所長(水産増養殖)

田中 晋 富山大学教育学部教授(生物学)

藤井昭二 富山大学名誉教授(地質学)

楠井隆史委員(富山県立大学短期大学部教授、環境)

竹内 章委員(富山大学理学部教授、海洋地質学)

広瀬慎一委員(富山県立大学短期大学部長、利水工学)

本城凡夫委員(九州大学農学部教授、水産増殖環境学)は欠席

顧問 柳田友道 東京大学名誉教授、富山大学名誉教授

事務局 北陸地方整備局河川部

関西電力(株)北陸支社

議事

平成15年度連携排砂計画(案)について

平成15年度連携排砂に伴う環境調査計画(案)について

委員の評価及び意見

【評価】

- ・平成15年度連携排砂計画(案)については妥当と考えられる。
また、土砂変質進行抑制策については関係団体等と調整し、8月末等に予め期日を設定し、実施することが妥当と考えられる。
なお、土砂変質進行抑制策実施にあたっては、徐々に放流量を増加させ、河川流量の急激な変化を避けるよう配慮すべきである。
- ・平成15年度連携排砂に伴う環境調査計画(案)については妥当と考えられる。

【主な意見】

平成15年度連携排砂計画（案）について

- （事務局）事務局としては、降雨がなくとも土砂変質進行抑制策は実施可能であるが、少しでも降雨がある場合に行うことがより望ましいと考え、少しでも降雨がある場合に実施するという案を提案している。一方、関係団体から、降雨にかかわらず8月末等の期日を定めておき実施すべきとの意見をいただいた。
- （委員）土砂変質進行抑制策を80m³/s程度以上の放流を8時間行うとあるが根拠はなにか。出し平ダムと宇奈月ダムで貯水量が違うが、同じ放流方法でいいのか
- （事務局）80m³/sは発電の放流量72m³/sを含めて設定している。8時間は平成12年に実施した土砂変質進行抑制策の実績から、ある程度の効果が確認されたため、これを踏襲している。土砂変質進行抑制策実施時には、ダムの堆砂面の上を水が流れる。よって、貯水量よりも貯水池の底の幅が問題となるが、両ダムに大差はない。
- （委員）平成12年の土砂変質進行抑制策時の水質はどうだったのか。
- （事務局）SS、DO等水質に問題となるようなデータは見られなかった。
- （委員）土砂変質進行抑制策の具体的な効果は。
- （委員長）平成12年の土砂変質進行抑制策の結果、COD、強熱減量、窒素等底質環境は若干改善されたという実績があり、一定の効果があると思われる。
- （委員）8月末に期日を決めて実施したほうがよいという地域からの意見に対して、事務局としてどのように考えているのか。
- （事務局）事務局としては、降雨がなくとも土砂変質進行抑制策は実施可能であるが、少しでも降雨がある場合に実施したほうがより望ましいと考えている。しかし地域からの意見をふまえて、8月1日以降で降雨が確認された場合に実施する案と実施時期をあらかじめ決めておいて実施する案の2つについて、評価委員会で審議していただいた後、今後地域と調整していく中で決定していきたい。
- （委員）8月末の晴天時に急に川を濁らすことは、生物がどう予感するのか専門家ではないのでわからないが、専門家の委員のご意見はどうか。
- （事務局）80m³/sの放流は、発電によりほぼ確保でき、雨の影響は小さくなく、また、10mm程度の降雨時の濁度も低い。平成12年の土砂変質進行抑制策時のSS値は、排砂時に比べて2桁ほど低く、魚類に対する影響は排砂時ほどではないと思われる。
- （委員）土砂変質進行抑制策の80m³/sほどの放流であれば、魚が流されていくほどではないし、影響は排砂時ほどではないと思われる。
- （委員長）土砂変質進行抑制策により多少の濁りはあるが、排砂に比べると環境に与える影響は微々たるものとする。
- （委員）多少なりとも降雨があるときに実施したほうがよいのではないかと考える。期日を決めて実施するのであれば、急激な変化がないよう、徐々に流量を増加させる等の工夫をしてもらいたい。
- （事務局）ダムの操作運用については今後検討する。
- （委員長）土砂変質進行抑制策については、あらかじめ8月末等に期日を定めておき、6月から8月に基準を満たす出洪水が発生しなかった場合に実施することについて委員会として了解する。

平成15年度連携排砂に伴う環境調査計画(案)について(資料-2)

- (委員長) 河川水質調査として臭気の嗅覚測定、ダム底質調査として無機態リンの分析を実施してみてもどうか。事務局で検討してほしい。
- (委員) 環境調査案に関しては、合理的に調査を進めるため調査項目や地点数を減らすことについては特に異論はない。ダム湖の中において短期間でスメクタイトが生成されたという論文がある。この問題提起について調べられれば調べてほしい。
- (事務局) 専門家に確認したところ、一般的にスメクタイトの生成には、地質年代的な時間が必要であり、数年のオーダーではスメクタイトは生成されないとのことだった。なお、スメクタイトに関しては現在調べているところであり、結果が出ればお示ししたい。
- (委員) 水生生物についてはわかっていないことが多い。今までの調査結果だと、後で回復していることぐらい。魚類の夜間調査を実施すればよりはっきりできると期待している。